

- 問1 下関条約によって日本が清から得た賠償金は、当時の国家予算の数倍にのぼる巨額なものでした。この賠償金を主な財源として、1901年に操業を開始し日本の重工業発展の礎となった官営の施設を選びなさい。 (2019年 岡山県公立入試 類似)
1. 八幡製鉄所                      2. 富岡製糸場                      3. 横須賀造船所                      4. 足尾銅山
- 問2 明治政府によって群馬県に富岡製糸場が設立されたのは1872年ですが、この1872年は西暦で何世紀にあたるか、最も適切なものを選びなさい。 (2026年 熊本県公立入試 類似)
1. 18世紀                      2. 21世紀                      3. 19世紀                      4. 20世紀
- 問3 1875年、明治政府はロシアとの間で国境を確定させるために樺太・千島交換条約を締結しました。この条約によって取り決められた領土の扱いについて、正しい説明はどれですか。 (2023年 石川県公立入試 類似)
1. 日本が千島列島の領有権を放棄する代わりに、樺太（サハリン）を日本領とした。                      2. 樺太（サハリン）の北緯50度以南を日本領とし、千島列島をロシア領とした。                      3. 日本が樺太（サハリン）の領有権を放棄する代わりに、千島列島を日本領とした。                      4. 樺太（サハリン）と千島列島の両方を、日本とロシアの共同管理地とした。
- 問4 1880年代半ばの日本では、近代的な政治体制を整えるために太政官制が廃止され、新たに内閣制度が創設されました。1885年にこの制度における初代内閣総理大臣に就任した人物は誰ですか。 (2024年 岩手県公立入試 類似)
1. 木戸孝允                      2. 大久保利通                      3. 伊藤博文                      4. 板垣退助
- 問5 日清戦争後の賠償金の使途や、当時の国内における石炭産出量の増加という背景を踏まえ、官営八幡製鉄所が北九州の地に建設された理由とその目的についての説明として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 島根県公立入試 類似)
1. 足尾銅山から供給される鉱物資源を精錬し、欧米諸国への輸出額をさらに増大させるため                      2. 近くの筑豊炭田から燃料となる石炭を確保し、軍艦や兵器の材料となる鉄鋼の自給を図るため                      3. 北海道の石狩炭田から運ばれる石炭を加工し、海外へ輸出するための貿易拠点を形成するため                      4. 近くの三池炭田から燃料となる石炭を確保し、輸出用の生糸を大量生産する機械を導入するため
- 問6 1905年のポーツマス条約締結直後における、日本の北方周辺の領土状況を説明した文として、当時の状況に合致するものはどれですか。 (2019年 大分県公立入試 類似)
1. 樺太（サハリン）は全域が日本領となっているが、千島列島については択捉島（エトロフ島）以南のみが日本領として示されている。                      2. 樺太（サハリン）の中央付近に境界線が引かれ、その南側が日本領となっている。また、千島列島の島々はすべて日本領として示されている。                      3. 樺太（サハリン）の中央付近に境界線が引かれその南側が日本領となっているが、千島列島についてはすべてロシア領として示されている。                      4. 樺太（サハリン）は全域がロシア領として示されているが、千島列島については得撫島（ウルップ島）以北も含めすべて日本領となっている。
- 問7 1900年前後の日本において、綿糸の輸出量が急増し、主要な輸出品となった背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 群馬県公立入試 類似)
1. 欧米諸国から安価な綿糸が大量に輸入され、それをそのまま再輸出したため                      2. 大規模な紡績工場が次々と建設され、機械による大量生産が可能になったため                      3. 政府がすべての紡績工場を買い取り、国営化することで生産効率を高めたため                      4. 農村部での副業として、伝統的な手作業による生産体制が強化されたため
- 問8 明治政府が、大日本帝国憲法の制定を急いだ背景や目的として、最も適切な説明を選択してください。 (2022年 香川県公立入試 類似)
1. 地方の農民による一揆を鎮圧し、江戸時代のような封建的な身分制度を復活させるため。                      2. 近代的な法典を整備することで、欧米諸国との不平等条約の改正を有利に進めるため。                      3. アメリカ合衆国の憲法を完全に模倣し、大統領制を導入して民主主義を確立するため。                      4. 鎖国体制を維持し、外国の影響を排除して日本独自の伝統的な政治体制を守るため。
- 問9 自由民権運動の展開に関連した次の3つの出来事を、発生した時期が古いものから順に並べたものとして正しいものはどれですか。①板垣退助を党首とする「自由党」が結成される。②「民撰議院設立の建白書」が政府に提出される。③「大日本帝国憲法」が發布される。 (2020年 岐阜県公立入試 類似)
1. ③ → ① → ②                      2. ② → ③ → ①                      3. ① → ② → ③                      4. ② → ① → ③
- 問10 1890年代の日本において、大阪に大規模な工場が建設され、「東洋のマンチェスター」と呼ばれるほど発展した背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 福岡県公立入試 類似)
1. 機械による紡績業が発展し、綿糸の輸出量が輸入量を上回ったため。                      2. 外国からの安価な綿糸の輸入が急増し、国内産業を保護する必要があったため。                      3. 養蚕業が盛んになり、海外へ輸出するための生糸の生産が集中したため。                      4. 官営の八幡製鉄所が操業を開始し、鉄鋼の輸出が急増したため。
- 問11 19世紀後半、日本が欧米諸国と結んだ不平等条約には、日本国内で罪を犯した外国人を日本の法律で裁くことができず、その外国人が属する国の領事が裁判を行うという不平等な項目が含まれていました。この権利の名称と、当時の日本が抱えていた不利益の説明として適切な組み合わせを選びなさい。 (2022年 岡山県公立入試 類似)
1. 領事裁判権（治外法権）が認められており、日本側が外国人の犯罪を裁けず、日本人に不利な判決が出るなどの問題があった。                      2. 関税自主権の欠如の状態であり、日本側が外国人の犯罪を裁けず、日本人に不利な判決が出るなどの問題があった。                      3. 関税自主権の欠如の状態であり、輸入品にかかる税率を日本が自由に決定できず、国内産業の発展が妨げられる問題があった。                      4. 領事裁判権（治外法権）が認められており、輸入品にかかる税率を日本が自由に決定できず、国内産業の発展が妨げられる問題があった。
- 問12 明治時代の外交史において、1894年の日清戦争や1900年の『武土道』刊行の後の1904年に勃発した、朝鮮半島と満洲の支配権をめぐる日本とロシアとの間で行われた戦争を何といいますか。 (2016年 大分県公立入試 類似)
1. シベリア出兵                      2. 日清戦争                      3. 第一次世界大戦                      4. 日露戦争
- 問13 明治時代に活躍した作家で、思春期の少年少女の心情を描いた『たけくらべ』や『にぎりえ』などの小説を残し、現在は五千円札の肖像として採用されている人物を選びなさい。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 樋口一葉                      2. 平塚らいてう                      3. 与謝野晶子                      4. 紫式部

## 答え合わせ・解説

|     |                                                                          |                                                                                                                                                                                                            |
|-----|--------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 1<br>八幡製鉄所                                                            | 日本は日清戦争の賠償金（約3億1000万円）を軍備拡張や金本位制の確立に充てたほか、産業の近代化を推進するために使用しました。その代表的な事例が、福岡県に建設された官営の八幡製鉄所です。筑豊炭田の石炭と、中国の大冶（タイエ）鉄鉱石を結びつけることで鉄鋼の国内自給を目指し、日本の産業革命を大きく進展させました。                                                |
| 問2  | 答え 3<br>19世紀                                                             | 西暦1801年から1900年までの100年間が19世紀となります。したがって、明治政府が富岡製糸場を設立した1872年は19世紀に含まれます。                                                                                                                                    |
| 問3  | 答え 3<br>日本が樺太（サハリン）の領有権を放棄する代わりに、千島列島を日本領とした。                            | 江戸時代末期、樺太は日本とロシアの「境界未定地（共同管理地）」とされていましたが、現地では両国国民の衝突が起きていました。明治政府は、ロシアとの紛争を避け、国内の近代化や北海道の開拓に集中するため、樺太の権利を譲る代わりに、千島列島全域を日本領とすることで国境を確定させました。                                                                |
| 問4  | 答え 3<br>伊藤博文                                                             | 明治政府は、立憲制の導入と不平等条約の改正を目指し、1885年に内閣制度を創設しました。長州藩出身の伊藤博文がその初代内閣総理大臣に任命され、憲法の制定や国会の開設に向けた準備を本格化させました。選択肢にある大久保利通や木戸孝允は、内閣制度が創設される以前に亡くなっています。                                                                 |
| 問5  | 答え 2<br>近くの筑豊炭田から燃料となる石炭を確保し、軍艦や兵器の材料となる鉄鋼の自給を図るため                       | 八幡製鉄所が北九州に建設されたのは、燃料となる石炭を近隣の筑豊炭田から容易に調達でき、かつ原料となる鉄鉱石を中国（大冶鉄山など）から輸入するのに便利な立地であったためです。日清戦争を経て、日本は軍事力の強化や鉄道網の整備に不可欠な鉄鋼を自国で生産する体制を整えようとしていました。                                                               |
| 問6  | 答え 2<br>樺太（サハリン）の中央付近に境界線が引かれ、その南側が日本領となっている。また、千島列島の島々はすべて日本領として示されている。 | 日露戦争後の地図では、ポーツマス条約の取り決めにより、樺太の北緯50度より南側の半分が新たに日本領（網掛けなど）として描かれるようになります。また、1875年の樺太・千島交換条約によって千島列島全域が日本の領土となっていたため、この時期の地図では「南樺太」と「千島列島すべて」が日本の範囲に含まれているのが特徴です。                                             |
| 問7  | 答え 2<br>大規模な紡績工場が次々と建設され、機械による大量生産が可能になったため                              | 明治時代後半から、大阪を中心に大規模な紡績工場が建設され、産業革命が進展しました。それまでの手作業から機械による動力を用いた生産へと移行したことで、綿糸の大量生産が実現しました。その結果、日本は綿糸の輸入国から世界有数の輸出国へと転換し、日本の近代産業を支える重要な部門となりました。                                                             |
| 問8  | 答え 2<br>近代的な法典を整備することで、欧米諸国との不平等条約の改正を有利に進めるため。                          | 明治政府にとって、幕末に結ばれた不平等条約の改正は悲願でした。欧米諸国から「文明国」として認められるためには、近代的な憲法や法典（民法・刑法など）を備えた立憲国家であることを証明する必要がありました。そのため、伊藤博文を中心に憲法制定が進められ、立憲政治の形を整えることが急務とされました。                                                          |
| 問9  | 答え 4<br>② → ① → ③                                                        | 自由民権運動は、まず1874年に板垣退助らが「民権議院設立の建白書」を提出したことから始まります。その後、運動の組織化が進み、1881年に日本初の政党である「自由党」が結成されました。政府はこうした動きに対し、1889年に「大日本帝国憲法」を發布し、翌年には第1回衆議院議員総選挙を実施して、立憲制の形を整えました。                                             |
| 問10 | 答え 1<br>機械による紡績業が発展し、綿糸の輸出量が輸入量を上回ったため。                                  | 1880年代から1890年代にかけて、大阪紡績会社などの大規模な紡績工場が設立され、機械による大量生産体制が整いました。大阪周辺には女性労働者が多く集まり、安価で質の高い綿糸を生産できるようになった結果、1890年代後半には綿糸の輸出額が輸入額を追い越す産業革命の大きな転換点を迎えました。一方、鉄鋼の自給が可能になるのは、1901年の八幡製鉄所の操業開始以降のことです。                 |
| 問11 | 答え 1<br>領事裁判権（治外法権）が認められており、日本側が外国人の犯罪を裁けず、日本人に不利な判決が出るなどの問題があった。        | 幕末に結ばれた不平等条約には、外国人に「領事裁判権（治外法権）」を認める規定がありました。これにより、日本国内で外国人が罪を犯しても日本の法を適用できず、各国の領事が自国の法律に基づいて裁判を行うため、日本人被害者にとって不当に軽い判決が下されることが多くありました。もう一つの不平等な内容である「関税自主権の欠如」は、税率の決定権に関する問題であるため、裁判権の問題とは区別して理解する必要があります。 |
| 問12 | 答え 4<br>日露戦争                                                             | 19世紀末から20世紀初頭にかけて、日本は朝鮮半島や中国東北部（満洲）への影響力を強めようとしていました。これに対し、南下政策をとるロシアとの対立が深まり、1904年（明治37年）に開戦に至りました。この戦争は翌1905年まで続き、アメリカの仲介によるポーツマス条約で講和しました。                                                              |
| 問13 | 答え 1<br>樋口一葉                                                             | 明治時代の近代文学において、生活の苦しさや女性の哀歓を優れた感性で描いた作家です。24歳という若さで亡くなりましたが、その文学的功績が高く評価され、2004年から五千円札の肖像に選ばれています。与謝野晶子は歌集『みだれ髪』で知られる歌人、平塚らいてうは女性解放運動家、紫式部は平安時代に『源氏物語』を執筆した作家であり、時代や活動分野が異なります。                             |